

# ICCKyoto



巻頭インタビュー

# 未来に向けて、 京都国際会館の果たすべき役割

## —「京都議定書」をまとめた会議場



**赤坂 清隆氏** 公益財団法人フォーリン・プレスセンター 理事長

1971年に外務省に入省。国連日本政府代表部大使、経済協力開発機構(OECD)事務次長などを経て、2007年、国連広報担当事務次長(広報局長)に就任。国連の広報強化に尽力した。2012年8月より、海外メディア関係者の日本での取材活動を支援するフォーリン・プレスセンターの理事長を務める。



### 京都会議は、 人生で最も思い出深い 交渉の日々でした

**木下博夫館長(以下 木下)**：今回は京都国際会館とご縁の深い赤坂さんとの対談ということで、大変光栄に存じます。1966年の開館以来、最も意義深いと思われる国際会議、「地球温暖化防止京都会議(COP3)」(以下、「京都会議」)において、赤坂さんは日本政府代表代理として各国と熾烈な交渉に臨まれました。当時を思い起こされて、今何をお感じになりますか。

**赤坂清隆氏(以下 赤坂)**：京都会議は、思い出すだけで冷や汗が出る、日本の国力を挙げてのたいへんな外交交渉でした。合意した温室効果ガスの削減量が1%違うだけ

で、原子力発電所2基分、約9,000億円にも相当するという、まさに国益を賭けた交渉でした。丁々発止のやりとりを重ね、難関もなんとかぐり抜け、すべての力を出し尽くしたと思った日、夜も白々と明ける頃に最終合意が確認されました。いまや地球温暖化問題は、京都議定書に言及しないで議論することは不可避となりましたし、私の人生においても最も思い出深い日々となりました。

### 京都議定書が与えた、 「環境のシンボル」として の京都のブランド力

**木下**：自然に囲まれた京都国際会館は、「地球環境」を考える京都会議の開催場所として、最も適していたのではないのでしょうか。

**赤坂**：会議後に様々な国の方とお会いしましたが、京都国際会館周辺の自然環境の良さは、皆さん非常に高く評価されていました。京都会議の開催時期には周辺にまだ紅葉が残っており、米国代表として参加された方の、「会議場の周りの美しい自然と澄んだ空気が、連日の交渉で疲れた我々を癒してくれました」という言葉が非常に印象的でした。清らかな空気と素晴らしい景観は、環境を

守る京都議定書の締結に多分に影響を与えたのではないかと考えています。京都という街自体も、歴史的建造物と自然が共存した「環境を大切にしよう」というイメージがありますし、京都会議の「環境」という印象をより強固にしたと思います。京都会議の開催地となったことで、街全体が「環境保全の街」というブランドを確立したと言っても過言ではないと思います。

### 日本が影響力を取り戻すには、日本から情報を発信することが大切

**木下**：赤坂さんは現在、日本に駐在する外国メディアへの取材協力を担うフォーリン・プレスセンターの理事長として、日本の世界へ及ぼす影響力の弱体化について警鐘を鳴らしていらっしゃいますが、国際会議の誘致や開催といった面ではどのようなお考えをお持ちですか。

**赤坂**：私が国連事務次長をしていた当時と比べると、情報戦略の面で、日本から積極的にイニシアチブを取ろうとする姿勢が弱まってきていると感じています。その要因は、日本は世界の情報を取り入れることばかり

重視する傾向があり、逆に日本の文化や情報を世界へ発信することにあまり関心を向けてこなかったことにあると思います。最近では、中国や韓国、ブラジルといった国々が世界に対する発言力を強めています。日本もそれを黙って見ているわけにはいきません。その点、世界各国の人々が集まる大規模な国際会議は大変重要です。日本で国際会議を開催し、そのタイミングで国内外のメディアの関心を集め、積極的に情報発信を行うことが必要だと思います。

**木下**：特に近年問題視されていますが、日本で開催される政府系などの国際会議が減少しているように感じています。会議テーマや会議場のスペース不足にも関係しますが、誘致活動においてはどのような課題が考えられますか。

**赤坂**：国連の会議であれば、韓国、カタール、メキシコ、ブラジル等が積極的に誘致活動を行っています。日本も、政府と地方公共団体が連携して長期的に見通したビジョンを持ち、戦略的に会議を選んでアプローチしていくことが必要だと思います。その際、既に京都会議の成功という確かな実績を世界に示している京都国際会館の存在は、大きな役割を果たしてくれるものだと思います。この会議

場をどう活用するかが、日本の将来においても、ますます重要な課題となっていくでしょう。

### 京都国際会館のノウハウをどう活かすか、 次のステップへの足掛り

**木下**：京都国際会館も開館から47年経ち、次のステップへ進まなければならない時期に来ていると感じています。将来に向けては、国際会議の誘致や運営だけでなく、当館が長年蓄積してきた国際会議の運営に関するノウハウを世界に広めていくことも考えています。

**赤坂**：素晴らしい会議場を有していても、国内に会議オペレーションの専門知識を有した人がほとんどいないという国は少なくありません。例えば、カタールのドーハでは毎年大きな国際会議が行われていますが、実際の運営はフランスなどの専門組織にほとんど任せているのが現状です。京都国際会館が蓄積されてきた国際会議の運営ノウハウは世界的にも誇れるものですし、たいへん需要のあるものだと思います。

**木下**：今年3月には、ミャンマーの政府関係の方々から来年開催の首脳会議の準備のために視察にいられました。ミャンマーでは、現在国内に大きな会議場が建設されていますが、会議運営についてのノウハウはまだ充分ではない状況のようです。

**赤坂**：近年のアジア圏の成長は著しいものがありますし、中でもミャンマーは民主化によ

り新しい国づくりを進めており、特に注目を集めている国のひとつです。今後の世界的影響力を踏まえても重要な役割を担っていくはずですが、そのような国へ、京都国際会館がこれまでに蓄積された会議運営方法を提供するなどして協力することは、日本にとっても大きな意味を持つと思います。

**木下**：国立の国際会議場として、我々の経験が海外への対外協力に役立ち、結果として日本全体の評価につながれば、たいへん喜ばしいことです。

**赤坂**：諸外国に対してサポートを行うことで京都国際会館にとっても発見がありますし、国際会議のあり方を見直すこともできるでしょう。会議場をはじめ、日本の各組織が共通の目標に向け、組織の枠を越えて努力することは、今後の国際的組織運営において最も大切になると感じています。国際会議場とは世界の国々から人々が集まり、コミュニケーションを通じて深いつながりを醸成する場所です。日本が諸外国との関係を深めつつ、世界に対する影響力や情報発信力をより強固にするためにも、京都国際会館はこれまで培われてきた素晴らしい財産を積極的に国内外へ提供し、活用していただくことを期待しています。

interviewer

### 木下 博夫 プロフィール

1943年生まれ。建設省建設経済局長、国土事務次官などを経て、2012年より京都国際会館館長・常任理事を務める。



# 当館の空間を彩る 美術品たち

見る者を圧倒する、水墨の抽象世界。

京都国際会館2階にある、改装されたばかりの会議場 Room B-2。その入口横には、来場者を迎える壁画「出遇」が飾られています。作者は、書の枠を超えた新たな水墨表現を追究し続ける芸術家、篠田桃紅。彼女の作品は平面だけに留まらず、同階にある会議場Room A前には、立体作品「展開」も飾られています。壁一面にそびえるレリーフ壁は墨や銀泥などで彩色され、ダイナミックな作風が訪れる人々の目を惹き付けます。



【作者名】  
篠田 桃紅 (しのだ とうこう)

【略歴】  
1913年3月28日生まれ。本名は篠田満洲子。幼少より書を学ぶが、その後文字の決まり事を離れた新しい墨の造形を試み、“水墨抽象絵画”という新たなジャンルを切り拓いた。1956年に渡米し、抽象表現主義全盛期のニューヨークで高い評価を得る。帰国後も制作を続け、100歳を迎えた今なお、創作活動に取り組んでいる。

写真上:「出遇」(2階 Room B-2入口横) / 写真下:「展開」(2階 Room A前)

## For you

### 庭師が語る 京都国際会館の庭園の魅力

47年経った今だからこそ、  
その魅力を知ってもらいたい。

京都国際会館には、池と木々からなる日本庭園が広がっており、現代的な建物との美しいコントラストを見せています。「京都国際会館の庭園は、もともと、館内のみでなく庭園でも催事を楽しんでいただける回遊庭園として設計されているんですよ。」と語るのは、庭園景色を担当している植彌(うえや) 加藤造園の加藤嘉基さん。「日本庭園というものには、終わりが無い

です。建物は建築当初が最高の状態といえますが、庭園は出来上がった時点ではまだ7割程度。その後、庭の花木が育ち、数十年を経てやっと完成に近づいていきます。京都国際会館の庭園は造られてから47年目となり、ちょうど庭園として熟成してきている時期ですね。これからの夏でしたら池に咲く大賀ハスが見所です。京都国際会館は建築が大変有名ですが、庭園の魅力ももっとたくさんの方に知っていただきたいと思います。」

当館にお越しの際はぜひ、四季を通じて花

を楽しめるよう設えられた、自然豊かな庭園の佇まいを五感で楽しんでみてください。



## 夏 京都紀行



久方の雨も降らぬか 蓮葉に  
たまれる水の玉に似たる見む

作者不詳(諸説有り)・万葉集 巻16 3837

「雨でも降ってこないだろうか。蓮の葉に溜った水が玉のように光る姿が見たいものだ。」

## 法金剛院の蓮

夏の暑さが盛りを迎え、水辺が恋しい季節になると、水面から蓮の花がすくく姿を現します。水辺に育つ蓮は古くから涼をもたらす存在と捉えられていたようで、日本最古の歌集である『万葉集』にも蓮を詠んだ歌が何首かおさめられています。今回ご紹介する歌もそのひとつ。蓮の葉に溜まる露を水の玉と見る光景は、想像するだけで清らかで涼しい感じが伝わってきます。冷房など無かった京都の暑い夏に、人々は自然の姿を歌に詠むことでひとときの涼を得ていたのでしょうか。泥の中から美しい花を咲かせる蓮は、清らかさや浄化の象徴ともされ、仏教の教えとも深いつながりを持ちます。京都でもあちこちの寺院で蓮の姿を見ることができますが、特に右京区花園にある法金剛院が名所として知られ、別名「蓮の寺」と呼ばれています。7月上旬から8月上旬にかけて、「苑池」と呼ばれている「池泉回遊式庭園」には90種余りの蓮の花が見事に水辺を彩ります。



京都国際会館の池には「大賀ハス」という蓮が植えられています。これは2000年も前の弥生時代の遺跡から発見された種から蘇った蓮です。古の人々も楽しんだ薄紅色の優雅な花は、悠久の時を感じさせてくれます。

## 京都国際会館 主催イベント

### 開催予定 乾杯の夕べ2013

～響きあい♪陽気に乾杯!  
プローストゥ!(Prosit)～

2013年7月21日(日)～22日(月)

時間：17時30分(開場)～20時30分

会場：国立京都国際会館 庭園(雨天の場合は館内)

今年は京都・ケルン姉妹都市提携50周年を記念して、ドイツを紹介する展示や、ドイツ料理などが楽しめる屋台が出店します。打上げ花火やバンド演奏、抽選会など、夏の夕べのひとつときをお楽しみください。

詳細につきましては当館HPをご覧ください。  
<http://www.icckyoto.or.jp/>



### 開催報告 第55回春の宝松庵茶会

4月29日(祝・月)に開催された宝松庵茶会には、アフガニスタンをはじめとする4カ国からの留学生約20名を招待しました。昭和59年の開始以来、留学生を招待するのは初の試みとなり、お茶の体験とともに京都国際会館の魅力やPRするよい機会となりました。今回は約600名のお客様にご参加いただき、豊かな自然とお茶の世界を楽しんでいただきました。



※2013年4月30日(火)京都新聞朝刊 掲載記事

## 代表電話交換業務廃止のお知らせ

7月1日より、代表電話番号(075-705-1234)における電話交換業務を廃止し、各部署に直通番号を設置することになりました。お問合せ等につきましては、各「お問い合わせ窓口」までお願いいたします。ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

お問い合わせ内容	電話番号	FAX	お問い合わせ窓口
開催催事、会場使用、 営業担当者※へのご連絡	075-705-1229	075-705-1100	営業推進部
施設見学、撮影、 自主企画事業、広報	075-705-1218		企画事業室
遺失物、交通案内、 財団法人に関すること、その他	075-705-1205	075-705-1223	総務課
会計、経理	075-705-1212		経理課
施設、工事	075-705-1251	075-705-1100	施設部

※営業担当者の直通番号は引き続き使用いたします。

## 2013年7月～12月開催予定のイベント・会合一覧

(2013年7月1日現在)

日程	催事名	人数
7月2日～3日	第34回日本炎症・再生医学学会	600人
7月7日	平成25年度公認スポーツファーマシスト基礎講習会(京都会場)	500人
7月21日～22日	乾杯の夕べ2013～響きあい♪陽気に乾杯!プローストゥ!(Prosit)～	3,500人
7月26日	第111回関西地区経済同友会会員合同懇談会	500人
7月27日～28日	第1回日本糖尿病協会療養指導学術集会	800人
8月4日～9日	2013年京都国際地理学会議 <span style="color: orange;">ピックアップイベント</span>	1,400人
8月8日	平成25年度全日本珠算選手権大会	500人
8月10日～11日	第3回小児科専門医・専門医取得のためのインテンシブコース	480人
8月29日～30日	全国都市監査委員会総会・研修会	1,500人
9月1日	エキスパートナーズ・フォーラム2013急変対応ベストプラクティス	300人
9月3日～7日	第13回アジア移植学会・第49回日本移植学会総会 <span style="color: orange;">ピックアップイベント</span>	2,000人
9月28日～29日	2013年度秋期コ・メディカル教育セミナー京都	700人
10月6日～8日	第10回科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム	900人
10月17日～18日	第52回全国自治体病院学会	3,000人
10月24日～26日	第51回日本癌治療学会学術集会	8,000人
10月28日～30日	第51回日本生物物理学会年会	1,500人
11月2日	第16回京都経営研究集会	500人
11月3日	第53回近畿理学療法学術大会	2,200人
11月10日～12日	第29回京都賞授賞式・記念講演会・記念ワークショップ	3,000人
11月15日～17日	日本精神分析学会第59回大会	1,400人
11月18日～21日	NACE International東アジア太平洋地域国際会議 & エキスポ 2013	350人
11月23日	第50回日本糖尿病学会近畿地方会第49回日本糖尿病協会近畿地方会	1,800人
12月13日～15日	ATAC 2013	600人

※参加者300名以上の会議(参加者は概数)

## 2013年 京都国際地理学会議

ピックアップイベント

2013年8月4日～9日

世界的な地理学の祭典である京都国際地理学会議では、社会・文化と環境との関係をめぐる諸問題を広く検討し、地球の将来について包括的な討議が行われる予定です。「地球の将来のための伝統と近代知」をメインテーマとし、京都で人類が持続的に生きてゆくために取り組むべき諸課題に対する過去と未来の地理学的解決策が検討されます。

## 第13回 アジア移植学会

## 第49回 日本移植学会総会

ピックアップイベント

2013年 9月3日～6日 | 2013年 9月5日～7日

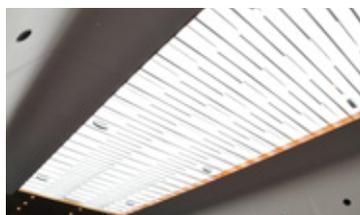
日本の移植医療の質の高さが社会に認められている中、第13回アジア移植学会と第49回日本移植学会が同時開催されます。日本移植学会総会では、「命・絆・愛」のテーマに基づき、医療従事者の情報交換、科学的議論の場が設けられます。また日本初開催のアジア移植学会は、「一未来へのメッセージ-アジアから世界へ」のテーマのもと、移植の最先端の情報を取り入れた講義とワークショップやセミナー、シンポジウムが用意されています。

## 京都国際会館は、2016年の50周年に向けて 装い新たにリフレッシュしていきます。

現在、耐震改修工事に合わせて外壁の改修を行っております。  
それに伴い、設備改修により最新の会議環境を構築する予定です。



会議場 Room B-1, Room B-2 の耐震工事並びに内装工事が完了しました。



会場内の照明を LED 灯具に変更したことで省エネ化と共に明るくなり、  
織物を用いた壁紙も新しく張り替えをしました。

平成25年7月6日～10月20日までの期間、会議場 Room A の耐震改修工事及び  
内装改修工事が実施されます。工事期間中は大変ご迷惑をおかけいたしますが、  
何卒ご理解ご協力をお願い申し上げます。

**※工事中も通常通り営業をしております。会場のご利用はお気軽にお問い合わせください。**

### ▶「動画で楽しむ」京都国際会館

写真のみでは分からない当館の魅力を、  
ぜひ動画でご覧ください。

お手持ちのスマートフォンもしくは携帯電話の  
バーコードリーダーを起動し、右のQRコードを  
読み取ってください。

(一部の端末では動作しない恐れがあります。)



編集発行 公益財団法人 国立京都国際会館  
住所 〒606-0001 京都市左京区宝ヶ池  
TEL 075-705-1218  
FAX 075-705-1100  
E-mail com@icckyo.or.jp  
URL http://www.icckyo.or.jp/

 **ICC Kyoto**  
Kyoto International Conference Center

国立京都国際会館

検索

© Kyoto International Conference Center. All rights reserved.

表紙：衣笠山 地藏院  
撮影：江崎 為丸